

## 第2節 小串構内の立会調査

### 医学部附属病院MRI-CT装置棟新営工事に伴う立会調査

調査地区 小串構内

調査期間 平成6年3月24日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 300m<sup>2</sup>

調査結果 小串構内のほぼ中央部、第1中央診療棟西側に所在するMRI棟の増築が計画された。CT装置棟を北側に拡張するというものである。本地は平成元年度のMRI棟新築の際に、埋蔵文化財資料館が試掘調査を行い、二次堆積層中より削器や細石刃などが出土している。今回の増築予定地においては、MRI棟の基礎掘削及び配管掘削で、石器を包含する水田層が攪乱を受けていると予想された。また増築工事は、長さ30m、幅10mの範囲を現地地表下3mまで掘削するというものであった。このため、埋蔵文化財資料館では工事掘削後に立会調査を行い、土層の堆積状況を観察した。

土層観察は、MRI棟建築時の攪乱が及んでいない北壁で行った。基本層序は以下のようになる。上層から第Ⅰ層：マサ土、第Ⅱ層：明緑灰色粘土（造成土）、第Ⅲ層：黒褐色粘質土（近世整地土）、第Ⅳ層：茶褐色粘質土、第Ⅴ層：灰青色粘土・シルト・砂の互層、第Ⅵ層：貝層、第Ⅶ層：青灰色粘土の順である。第Ⅵ層：貝層からもわかるように、近世以前には、本調査地は海浜であったと考えられる。第Ⅵ層：貝層は、最も厚い場所で約10cmであるが、西から東に向かって徐々に薄くなり、西から19mの地点で消滅する。海岸線を示すと考えられる。

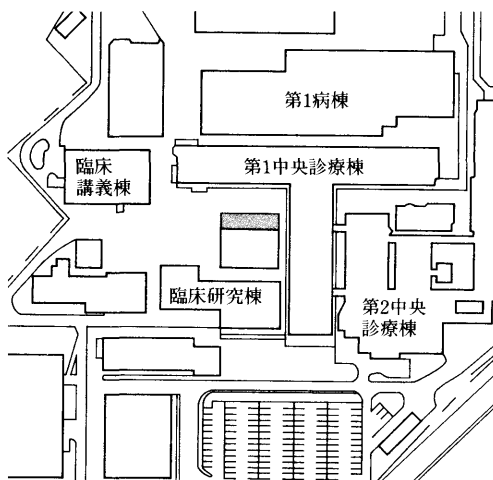


Fig.125 調査区位置図

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』（山口大学埋蔵文化財資料館、1991年）